

- 1 報告地区 : 留萌地区
- 2 事例報告学校名 : 羽幌町立羽幌小学校
- 3 報告者 : 校長 永 沼 慧久男
- 4 キーワード : 学力向上の取組

1 はじめに

羽幌町は留萌地区のほぼ中央に位置し、「日本海オロロンライン」の要衝として離島観光（天売島、焼尻島）の拠点でもある。本校は全校児童数298名、学級数15（内特別支援学級4）の中規模校である。子どもたちは全体的に明るく元気で、活発に活動する子が多い。また、他人に対する感謝の気持ちや、物を大切にすることを育ってきている。保護者の教育的な関心も高く、PTA活動にも協力的である。

今年度の学校経営方針では、急激な少子高齢化が進む中、一人一人が持続可能な社会の担い手として成長するように、子どもたちが集団の中で鍛え合い、支え合いながら力量を向上させ、自信をもって学校生活を過ごすことができる教育活動の推進を掲げた。昨年度、体力・運動能力面では、総合的に全国平均を上回る成果が出ている。そこで、今年度は生きる力を育む学力の一層の向上を目指し、全校体制で各種方策に取り組んでいる。

2 生きる力を育む学力向上の取組

「羽幌小学校学校改善プラン」の中に設定した各種方策に基づき、学力向上の取組を実施している。特に、望ましい生活習慣、学習習慣、読書習慣など習慣形成を重視し、継続して根気強く取り組んでいる。

(1) 学びに向かう「学習規律」などの徹底

学年の発達段階に応じて、基本的学習ルールや学習への態度・姿勢が定着するように指導の徹底を図り、子どもの学ぶ土台づくりを行っている。

また、毎年「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習の進め方や時間の目安を示し、保護者の協力も呼びかけている。「カテスタ」（家庭学習）や「夏スタ」「冬スタ」（夏季・冬季休業中の補習）も、時間や参加人数などで、まだまだ課題はあるものの定着してきている。

がくしゅうのきまり 1・2ねんせい

【じゅんぴのじかんは・・・】
 ◇つぎのじかんの がくしゅうようぐ（きょうかしよ・ノート・えんぴつ・あかえんぴつなど）のじゅんぴをして、じゅぎょうかいしのチャイムには、すわってまつ。
 ◇なかやすみ・ひるやすみは、よれいのチャイムで、すみやかにきょうしつにはいり、すわってまつ。

【がくしゅうちゅうは・・・】
 ◇つくえのうえにだすものは、えんぴつ、けしごむ、あかえんぴつ、じようぎ。
 ◇せすじをまっすぐにのぼす。
 ◇ふかくいすにこしをおろし、せすじをのぼし、あしのうらはゆかにつける。
 ◇はっぴようするときは、うでをまっすぐにのぼす。
 ◇しめいされたら、「はい」とへんじをして、はっぴようする。

【かくときは・・・】
 ◇しせいをただし、せすじをのぼし、めとノートのきよりを30cmほどはなしてかく。
 ◇ノートはまんなかにおいてかく。きょうかしよはひだりがわにおく。ひだりききはみぎがわ。
 ～ 以下、省略 ～

【はなすときは・・・】 ～ 省略 ～

(2) 学びを深める校内研修の充実

本校では、今日的な課題と本校の課題を踏まえ、昨年度から3か年の計画研究に取り組んでいる。「①算数科において身に付けるべき基礎的・基本的な知識・技能を習得した姿。②習得された知識や技能を活用しながら、友達との対話や教師との対話、自己との対話的な学びの中で自分の考えを簡潔・明瞭・的確に表現したり、積極的に考えを伝え合ったりできる姿。③自らの学びを振り返って、算数における成長を実感し、主体的に学び続けようとする姿」を目指し、研究主題を「自分の考えを進



【3年算数科の授業風景】

んで表現し「学びを深める子どもの育成～羽小Aスタイルと羽小Bスタイルの確立を通して～」と掲げ、実践に取り組んでいる。昨年度は、教えて考えさせる授業をベースとした学習展開の「羽小Aスタイル」に取り組んだ。今年度は、そこで習得した知識・技能を活用し、問題解決型をベースとした学習展開である「羽小Bスタイル」に取り組んでいる。

校内研修では、算数科の研究以外にも、道徳科や外国語活動の授業研究、食物アレルギーに関わるエビペン使用の研修など、年間を通して精力的に研修活動に取り組んでいる。



【2年算数科の授業風景】

(3) 進んで学ぶ読書活動の充実

保護者アンケートから、子どもたちは家庭での読書が少ないとの結果が出ている。そこで、学校での「朝読書」や「朝の読み聞かせ」の継続・充実を図るとともに、その他の方策を通して、子どもたちの読書に対する意欲を高め、家読の増加を図り、学力向上につながるよう取り組んでいる。

① 毎週木曜日の朝、町立図書館やボランティアサークル「あざらしおはなし会」の協力により、1年生から3年生を対象に、各学級ごとに「朝の読み聞かせ」を行っている。毎回4～5名の外部人材のほかに、管理職を含めた職員が読み聞かせを行い、子どもたちはいつも集中して聞き入っている。



【ボランティアによるおはなし会】

② 平成29年度からの3か年計画で、「北海道学力・体力向上対策推進事業（学校図書館活用推進事業）」の指定を受けている。学校図書館の環境整備や町立図書館と連携した読書活動、学校図書館を活用した授業実践を進めている。また研修会を開催し、事業の成果の情報発信も行っている。

③ 町立図書館とのタイアップ事業として、7月20日に「羽幌小学校ブックフェスティバル」を開催した。道立図書館の図書2千冊を体育館に敷いたカーペット上に表紙がよく見えるように広げ、その他に「しかけ絵本」80冊、「おはなし迷路」2つを展示した。図書の貸し出しの前に、低学年はボランティアサークルによる「おはなし会」、高学年は「ビブリオバトル（図書推薦大会）」も行い、読書意欲の喚起を図った。



【ブックフェスティバルより】

3 おわりに

今の子どもたちが成人して社会で活躍する頃には、「生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新などで、社会構造や雇用環境が急速に大きく変化し、予測が困難な時代を迎える」と言われる。そのような時代の中で、子どもたちが豊かで幸せな人生を送ることができる生きる力を、家庭や地域社会と連携・協力しながら身に付けさせてあげたい。また、そうすることによって、日本がこれからも持続可能な社会を維持し続けることができると考える。